

2016年5月15日

## 福音書からのメッセージ

そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

(ヨハネによる福音書 20章 22～23 節)

今日は聖霊降臨日です。ヨハネ福音書が描く聖霊降臨物語は、お墓に葬られたはずのイエス様がいなくなってしまうという、絶望の中でおこりました。弟子たちは恐れにとらわれ、家中の扉という扉に鍵をかけ、そして自分の心にまでも鍵をしていました。

絶望の中での聖霊の降臨。この出来事は、わたしたちにとっても良き知らせなのかもしれません。復活のイエス様はすべてのドアを通り抜け、頑丈に閉められた心の扉もこじ開けて来られました。弟子たちの元にも、そしてわたしたちの元にも。

そしてイエス様は、「聖霊を受けなさい」と言って息を吹きかけられます。天地創造のとき、神さまは人の鼻に息を吹き込まれ、人は生きるものとなりました。そして今、復活のイエス様が聖霊という息を吹きかけられます。この出来事は、新しい創造物語です。神さまから離れ、暗闇の中を歩かざるを得なかった一人ひとりに聖霊を与え、新しい命をくださったのです。

そして聖霊を与えられたわたしたちは、罪を赦すようにと遣わされています。罪とは犯罪という意味ではありません。聖書が語る罪とは、神さまに背を向け、自分の力だけに頼って生きることです。神さまの存在を忘れてしまい、暗闇の中にいることで



す。弟子たちがイエス様を見失い、ガタガタ震えていたあの時と一緒にです。

その罪の束縛に、苦しんでいる人がいます。何とかしてその泥沼から抜け出したいと思っている人が、わたしたちの周りにもたくさんいます。わたしたちはイエス様に出会い、罪の鎖から解放され、歩む者とされました。そのわたしたちにイエス様は聖霊を注がれて、「次はあなたたちがわたしの愛を伝える番だ」と言われます。わたしたちは今、隣にいる人たちに、あなたの罪は赦される、神さまはあなたを愛していると伝えるのです。

わたしたちは、罪を赦し合う共同体です。罪を神さまに懺悔し、罪の赦しをお互いに求め合う、それが教会なのです。聖霊の働きを信じて、わたしたちが新しい生涯を送ることが出来るようにと、日々求め歩むのです。その時に、聖霊は隣の人にも、またその隣の人にも与えられていく。すべての人に聖霊が及んでいく。それが神さまのご意志なのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

Tel/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>